

離任の御挨拶

前三鷹労働基準監督署長

深 澤 健

新春の候、公益社団法人東京労働基準協会連合会三鷹労働基準協会支部並びに会員事業場の皆様方には、日頃より労働基準行政の推進につきまして格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、私は3月31日を持ちまして三鷹労働基準監督署長を離任し、現在、これまでの知識と経験を活かし、企業とそこで働く方々の少しでもお役に立てるよう準備をしているところです。月日が経つのは早いもので、令和2年4月に三鷹労働基準監督署長として着任し、あっという間に2年が経ちました。着任当時、微力ながらこの地域社会に貢献させていただきたいという思いを抱いたことが、昨日のことのよう思い出されます。

現在、労働行政の最大の課題は、長期化する新型コロナウイルス感染症への対応ですが、また同時に、少子高齢化・生産年齢人口の減少という我が国の構造的な課題がある中で、国民一人ひとりが豊かで生き生きと暮らせる社会を作るためには、成長と分配の好循環による持続可能な経済社会の実現が不可欠です。この成長と分配の好循環による「新しい資本主義」の実現のためにも、労働行政が果たす役割は小さくないはずです。今年度の重点課題等に係る詳しいお話は、後任の柴田昌志署長からあると思いますが、当面、長時間労働の抑制、働き方改革の実現に向けた取組、労働災害の防止に変わりはないと思います。

松井幹雄支部長をはじめ公益社団法人東京労働基準協会連合会三鷹労働基準協会支部並びに会員事業場の皆様方には、2年間大変お世話になりました。

結びに、様々な行政課題を達成するためには、貴協会とのこれまで以上の連携が不可欠となっております。後任の柴田昌志署長にも引き続き、貴協会並びに会員事業場の皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。離任の御挨拶とさせていただきます。